

誰もが住み慣れた地域で 最期までいきいきと 心豊かに暮らせる社会に向けて



本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け合いの地域づくりを考えていきましょう。

第2弾 新しいふれあい社会 これからの「助け合い」を どう進めるか。 新型コロナウイルスの感染の収束が見えず、サロンや集まりの場の再開とはいきませんが、私たちの周りでは、手指消毒、体温測定、「密」にならないよう配慮をしながら、少人数での集まりが少しずつ始まりました。閉じこもりがちになってしまうと、高齢者の方の不安などになかなか気づくことが遅れてしまいますが、一人暮らしの高齢者の方へは、民生委員さんの他に、在宅介護支援センター職員が定期的に安否確認のための訪問をしています。 今年は、新型コロナウイルス感染への不安もあり、受診をためらってしまうという声も聞かれます。高齢者の方々の活動範囲や活動の機会が減ってくることや孤立化も心配されます。 社会福祉協議会では、8月から1ヶ月間「地域福祉活動計画」を策定するためのアンケート調査を実施しました。「隣近所との関わり合いや支え合い・助け合いに関すること」、「日常生活に関すること」等が主なものです。 私たちが、安心して住み慣れた我が家で暮らせるために、「行政のサービス以外に必要なこと」、「自分でできること」、「地域みんながやれること」など、誰にでもできる「助け合い・支え合い」について一緒に考えていきたいと思えます。

各地区の福祉部会の活動の様子

沢田

コロナ禍のもとで「今、何をしていくべきか」を模索している中、健康福祉部会では7月まで控えていた傾聴訪問活動をどう進めるか検討しました。その結果、8月からの再開が決定し、動き出しました。

新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、短時間の訪問の中で困っていることを聞いたり、少しでも応援できることをしているという思いで活動に取り組んでいます。

久しぶりの訪問に目を潤ませ喜んでくれた方もいたとのことで、訪問から戻ってきたボランティアさん達にも笑顔が見られ、再開して良かったと感じました。なかには縫い物で困っている方のお手伝いに結びついたり、すぐに対応できないことは持ち帰り検討するという形が徐々に増えてきています。

地域の中ではミニディサービス白鳥の会が年度内中止となりましたが、11月には運営委員により参加者全員のお宅を訪問しました。

コロナ禍で先が見通せない中、地域と連携しお互いを支え合って、気づかい助け合う、思いやりの心が大事だと思います。

【沢田健康福祉部会 水野】

山橋

山橋ふれあい広場は年内中止となり、再開を心待ちにしている会員の方々が沢山います。板仲サロンは毎週金曜日に参加人数が少なくても頑張つて継続しています。

コロナ禍で活動が自粛される中、福祉部会として、今できることを探していきたいと思えます。

【山橋福祉部会 矢内】

中谷

新型コロナウイルスの収束がつかめないまま、福祉部会の活動も足踏み状態が続いています。現在の状態が当たり前になる中で、生活に対するの不便さなどの声はあまり聞かれません。きつと、こういう状況だからこそ、ご近所での声かけ合いや気にし合いをされているからだと思います。

中田サロンについては、月に1回の開催で感染症対策の工夫を凝らしながら活動しています。また、独自のサロン通信を作成し、開催のお知らせの他、健康生活への情報を伝えていきます。

今年度も残りわずかとなりました。少しでも地域と連携した活動ができるように考えていきたいと思えます。

【中谷福祉部会 吉田】

野木沢

現在のところ福祉部会の開催予定はなく、以前にアンケートをとった結果を踏まえた内容と災害時の安否確認マニュアル作成を検討していきたいと考えています。

長寿会の活動は、地区連合会のゲートボール大会並びにグランドゴルフ大会が開催され、秋晴れの中、清々しい汗をかきながら健康増進に努められています。

野木沢人材バンク事業についても登録者を再度募集し、困った方への援助手段とし今後活用できるように準備を進めていきたいと考えております。

【野木沢福祉部会 長谷川】

母畑

10月14日、新型コロナウイルスの感染症対策をしっかりと行いながら第2回福祉部会を開催しました。

主な協議事項は、各福祉部会の定例会議の報告、社協から生活支援体制整備事業についての説明後、今年度の一人暮らし高齢者の要望アンケート調査(案)について協議しました。委員さんからは、「困りごと」については、現在実施しているところの紹介をしたり、心配な人を地域でどう見守るか、方部ごとや地区毎に打ち合わせをすることが大事ではないか、組単位で見守る体制づくりをすることが良いなど意見が出されました。

【母畑福祉部会 永沼】

※地域福祉活動計画について

今、社会福祉協議会では「地域福祉活動計画」(令和3年～8年)を策定中です。私たちを取り巻く環境は、少子・高齢社会の進展により、安心して住み慣れた我が家で暮らし続けられるために、さまざまな課題やニーズがあります。計画では、「ふくしを支える人づくり」「安心して暮らせる地域づくり」「社会福祉協議会の基盤強化」の三点から、「地域の課題」「個人・地域でできること」を共有し、「自助」「共助」「公助」の視点に立って、支援する仕組みづくりを進めていきたいと考えています。来年6月に概要版を全戸配布する予定です。

～町民アンケート調査から見える現状と課題①～

社会福祉協議会では、※「地域福祉活動計画」を作成するために、8月4日から9月4日の期間、町内在住の20歳以上の男女528人を対象に、アンケート調査を実施しました。

アンケートでは、ご近所の人との付き合いの頻度や内容について、困った時にはどんなことをしてほしいか、自分はどんなことができるかなどを聞きました。

※4P参照

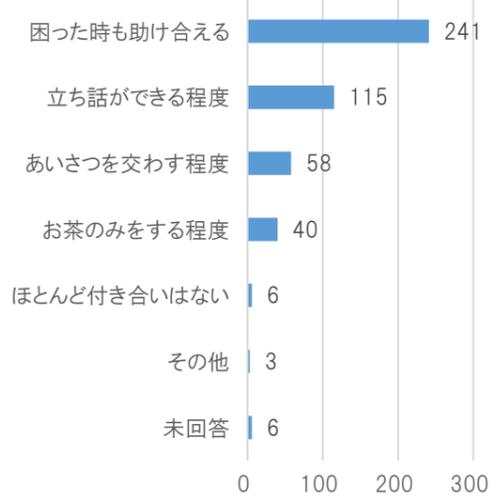
【調査の概要】

1 対象者	町内在住の20歳以上の男女
2 対象者数	528人
3 調査方法	手配り及び郵送配布・郵送回収
4 実施時期	令和2年8月4日から9月4日
5 回収結果	有効回収数:469票 有効回収率:88.8%

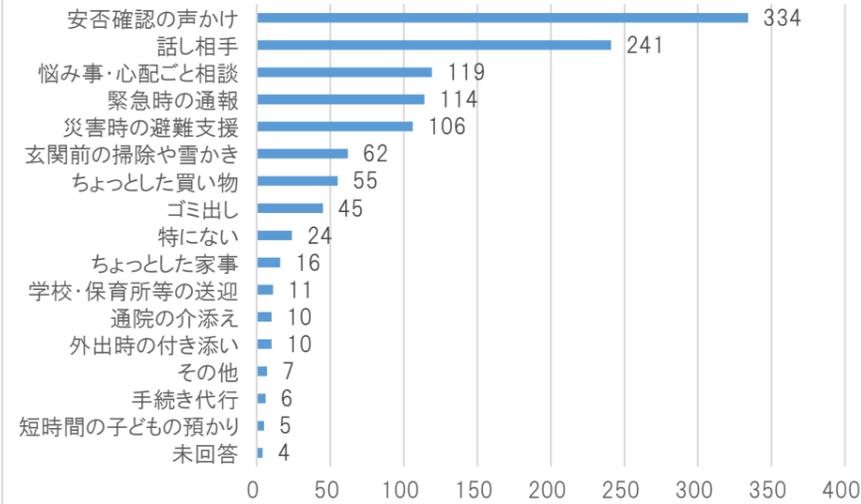
【調査依頼先】

- ・民生児童委員
- ・地区自治協議会福祉部会員
- ・石川地区行政区長及び行政区役員
- ・各種団体
- ・介護サービス利用者
- ・老人クラブ会員
- ・保育所、幼稚園、小学校保護者

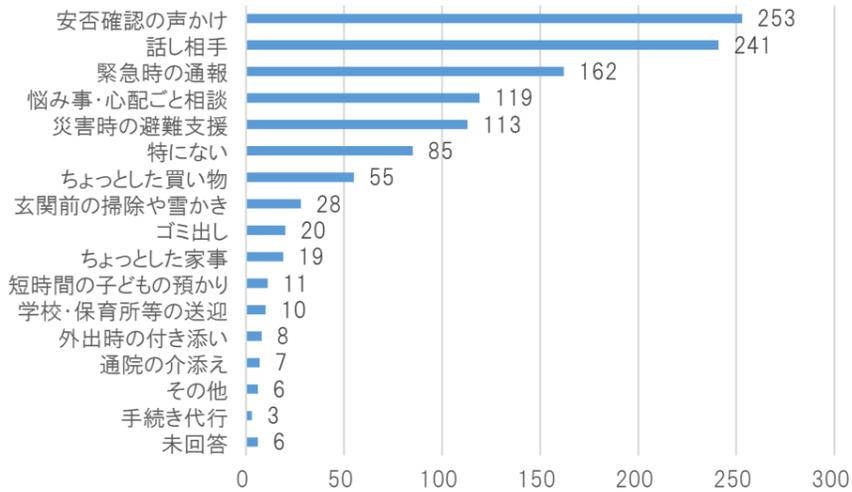
【問5】ご近所の方との程度お付き合いがありますか。



【問6】あなたは、ご近所が困っているとき、どんなことができますか。



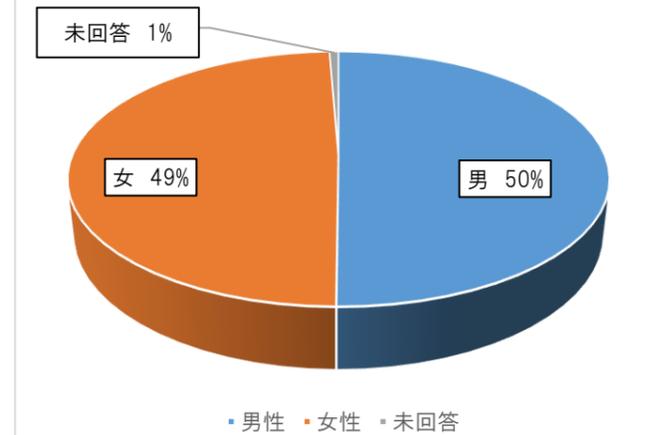
【問7】あなたが困った時、ご近所にしてもらいたいことはどんなことですか。



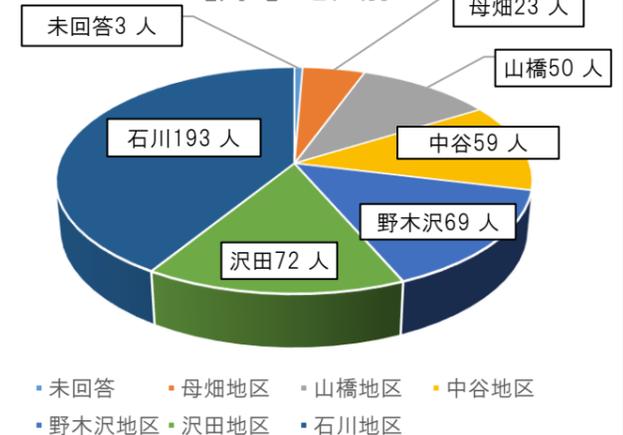
◎隣近所との関わり・支え合い・助け合いの現状
近所の人との程度つき合っているかについては、「困った時も助け合える」と答えた人が、60代で半数以上を占め、「困った時も助け合える」、「立ち話ができる」、「お茶のみをする」を合わせた「付き合いをしている」が、84.4%と交流の機会が多いことがわかりました。さらに、「自分がしてもらいたいこと」についても、「安否確認の声かけ」、「話し相手」が最も多く、気軽にできる手助けが、有効で重要であることが伺えます。次いで「緊急時の通報」、「悩みごと・心配ごと相談」、「災害時の避難支援」の順となっています。

【調査結果】

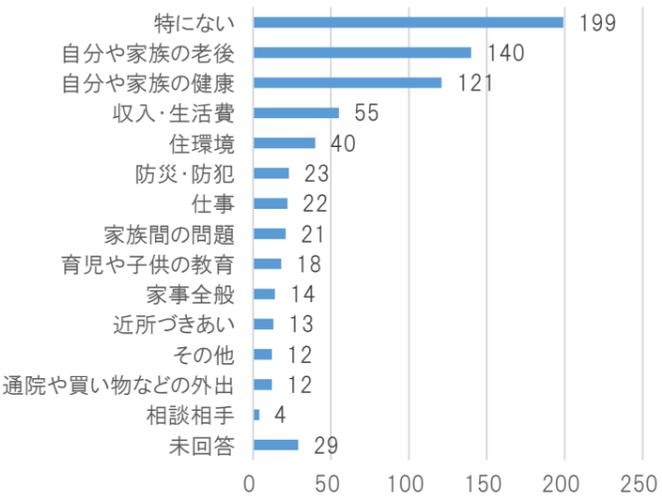
【問1】性別



【問2】地区別

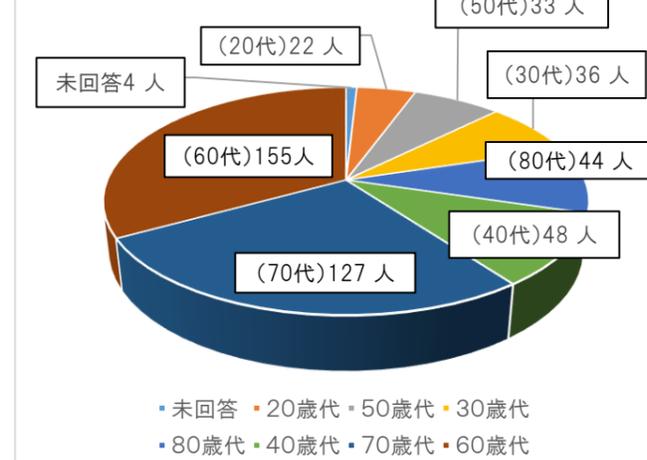


【問8】困っていること



◎日常生活の課題に関すること
日常生活で困っていることや将来の不安を誰(どこ)に相談しようと思うかについては、「困っていることとはな」という回答が27.5%と最も多く、次いで「自分や家族の老後」、「自分や家族の健康」を合わせた困りごとの回答が続いています。これらの相談先では「家族や親せき・兄弟」が41.1%と最も多く、次いで「友人・知人」の順となっています。私的な関係による相談先が上位を占め、「社会福祉協議会」、「役場」等の公的な相談先を合わせた回答は11.1%とやや少ない傾向にあり、行政や日常生活等の相談窓口は身近な相談機関となっていない現状がみられます。また、地区の課題については「若い世代の人口減少」が最も多く、次いで「高齢者世帯の増加に対する対策」、「地域の人のつき合い」、「単身世帯や未婚者の対策」の順となっています。

【問3】年齢別



【問4】家族構成

